

ショートメッセージ

2022年9月4日(日) 「燃え盛る炉の中で」

暗唱聖句: 神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。(ダニエル 3:17)

今週の聖書教育誌の週題は「燃え盛る炉の中で」です。先週の学びでダニエルはバビロンのネブカドネツアル王が見た夢の説き明かしをしました。それにより王の信任を厚くしたダニエルは捕囚のユダヤ人ではありましたが高い位を与えられバビロンの全州を治める長官に就きました。また、王はダニエルが信じる神に対して神々の神として崇め賛美をしたようです。ダニエルはこのときに王から与えられた特権を自分ひとりのものとせず、同僚のシャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人をバビロン州の行政官として任にあたる事が出来るように取り計らいもしました。

それから約二十年の月日がたち、ネブカドネツアル王の権勢は絶頂期を迎え、かつて夢に見た像を全身黄金で造り、バビロンの永遠の繁栄と王の威光を示そうとしたのでした。

高さは六十アンマ、幅は六アンマでドラという平野に建てました。一アンマは約 45cm ですから高さ 27m 幅 2.7m という巨大な像を純金で造り、王の権威・威光を示すには十分であり、なんら不足のないものでした。

ダニエル 3:5~6 角笛、横笛、六絃琴、豎琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器による音楽が聞こえたなら、ネブカドネツアル王の建てられた金の像の前にひれ伏して拝め。ひれ伏して拝まない者は、直ちに燃え盛る炉に投げ込まれる。

王はあらゆる諸国、諸族、諸言語の人々に対して像の前でひれ伏して拝めと命じました。それはかつてダニエルが夢を解き明かし王自身も賛美した**主なる神**を忘れた行為でもありました。

出エジプト 20:4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。

このように偶像を造り拝することは**主なる神**により「十戒」で堅く戒め禁じられたことでした。偶像礼拝がなぜいけないのでしょうか。それは**主なる神**に対する最も大きな罪だからです。偶像を造らせるのは王でも人でもなく、背後にいる悪の存在です。造らせ、拝ませ、仕えようとさせている彼らの目的は真の神への信仰から人間を引き放そうとするものなのです。

こうして王の威光を表す黄金の像を拝するように命じられたバビロンにあって、捕囚のユダヤ人が王に取り立てられていることに日頃から反感を持っていたカルデヤ人が王にこう訴えたのでした。

3:12 バビロン州には、その行政をお任せになっているユダヤ人シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人がおりますが、この人々は御命令を無視して、王様の神に仕えず、お建てになった金の像を拝もうとしません。

それを聞いて怒った王は燃え盛る炉の中に投げ込むと脅し、「お前たちをわたしの手から救い出す神があるか。」と**主なる神**をさげすんだのでした。

これに対して三人は少しも動じず「その問いかけにはお答えしない」「燃え盛る炉からも王からも必ず救ってくださる」とハッキリと確信をもって言い切ったのです。

シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人に降りかかったのは、まさに命をもとられかねない危険な試練でした。しかし、彼らは投げ込まれた火のなかでも守られました。燃え盛る火の試練のただなかで三人のほかにもう一人、共におられることを彼らは体験したのです。もう一人とは誰なのでしょう。

3:25 王は言った。「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。

私たちは人生の旅路のなかで大きな試練にあったときに一人ではたちまちのうちにどうして良いか

判らず打ちのめされてしまう経験をするときがあります。もし、試練のなかで燃え盛る火のみを見ていたならば飲み込まれ焼き尽くされることでしょう。しかし、共に火のなかにおられる主に目を注ぎ

続けるならば「**だからこそ、私はあなたの罪から救い出すために火の試練のなかあなたと共にいるのだ**」と言われて災いから救い出してくださいます。

彼らは信仰により主が共におられることを体験しました。火の試練に遭う人は、その中にいて救い出してくださいます主を体験し、病の試練に遭う人は癒し・平安を与えてくださいます主を知るのです。貧しい者にも、孤独な人にも友なるキリストがおられるのです。ここから示されることは試練を避ける、逃避する、あるいは妥協するところには**主なる神**との救いの出会いの機会は訪れないのかもしれませんが。

ダニエルやシャドラク、メシャク、アベド・ネゴらが捕囚の民としてバビロンに連れて行かれたのは南ユダ王国が偶像の神々を礼拝し続けた罪としてバビロンに滅ぼされたためでした。そのような捕囚の民として異教の神々のある場所でありながらも命を懸けて**主なる神**だけを礼拝し続けた人たちがいたことをダニエル書は現代の私たちに伝えています。

クリスチャン人口が1%の国である日本でキリスト者として表立って信仰を守り通すことは簡単なことではありません。八百万の神々と同じく**主なる神**もまたその一人と言え、私たちの周囲の人たちは寛容です。しかし、唯一の神であり、そのほかは偶像であり礼拝しない、祈らないとなると厳しい試練のなかにさらされる場合があります。苛烈な迫害により多くの人々が殉教した歴史を私たちの国は経験しています。けれども、そのような火の試練を乗り越えて今日まで数えきれない先達者の方々により信仰が継承されてきました。

私たちは「**インマニエル・神は我らと共におられる**」と感謝と喜びをもってみ言葉に生き、希望をもって先達の足跡を辿り、約束の地に向かって歩み続ける群れなのです。

● 分かち合い

- ・ 彼らのように強い信仰があればと願いますが、私たちはそれほど強くもなく、むしろ弱い存在だとも思われますが、あなたはご自身をどう思っておられますか。
- ・ 彼らはひとりではなく三人でした。二人・三人と祈るところにキリストはおられると教えられています。あなたは共に祈る友を求めていますか。

(担当：H.G.)



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。

左のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。

公開：9月1日（木）～